

2019 年度人文学部 FD 活動報告

(キリスト教学科、人類文化学科、心理人間学科、日本文化学科)

学部全体としては、カリキュラムに関する検討組織として学部内に常設された、各学科の時間割担当教員、学部教務委員、学部 FD 委員からなる人文学部カリキュラム委員会を計 5 回開催し、①3 つのポリシー見直しのための恒常的システム作りについて、②2019 年度以降の学部アンケートの回収の方法について、③卒業論文の評価方法と電子化について、④現カリキュラム(クォーター制を含む)における問題点の洗い出し、⑤学部 FD について、などの諸点について検討した。特に、卒業研究プロジェクト論文について、4 学科共通の評価基準を設け、シラバスに掲載することになったのは大きな成果であった。

学部企画の FD 企画としては、学部主催の FD 企画「シンポジウム 人文学異文化研修短期留学プログラムの今後に向けて」を、2020 年 2 月 5 日に実施した。当日は現在の担当者である森田貴之准教授、池田満准教授、プログラム開始時の担当者である RAJCANI、Jakub 准教授に加え、外国語学部の鈴木達也教授をパネラーとして活発な議論を行った。50 名(うち人文学部教員 45 名)の参加があり、今後の同プログラムのさらなる充実に向けて実りあるものとなった。

次に、各学科においての主な取り組みを紹介する。

キリスト教学科ではとくに以下の取り組みをおこなった。(1) 学科の 3 つのポリシーについて、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を中心に点検し、より正確でわかりやすい表現に改正することを決めた。(2) 学部全体の方針に即して、卒業論文の評価方法と評価基準について議論をかさね、副査の導入と評価項目の明文化をおこなった。(3) 日常の学科会議とは別に FD 懇談会を開催し、卒業生対象カリキュラム調査の集計結果にもとづいて、授業改善と時間割編成に関する意見交換の場をもった。

人類文化学科では、学科の自己点検・評価のための会議を 9 回実施し、前年度の自己点検・評価報告および学生アンケートの結果をふまえて、新たなカリキュラム開発の指針とすべく、学科の 3 つのポリシーを改定するとともに、カリキュラム・マップの作成を通じて、学則、履修規則、単位制度など大学の教育制度についての理解を深めた。また、教員の諸活動の定期的評価のために、学科の HP に教員の活動報告を随時掲載した。なお、大学の理念の更なる理解および教育方法の更なる改善を目的として、退職予定のベテラン教員複数による講演会を企画したが、新型コロナウイルスの影響により中止のやむなきに至った。

心理人間学科では、2019 年度は学生の計画的な履修に対する学科としての指針について検討すること、授業外での学習経験を促進する方策を検討することを大きな目的とした。前

者に関しては2018年度末から検討を重ね、6月に1年生に対してこれを示すことができた。後者については、授業外での学習をポイント化し、高得点者を学科として表彰する制度を立ち上げ、2020年2月2日に2019年度の表彰を行った。これらがどのような影響をもたらすのか、注視していきたい。

またFDにも深く関わる組織である「心理人間学科自己点検・評価委員会」について、その組織、検討手順について見直した。これまで、学科所属教員全員を委員としていたが、臨機応変な検討を可能にするため、学科長と学科内委員である運営委員、学科教務・時間割委員、学生支援委員、渉外広報委員の5役で構成し、委員会で検討の後、学科会議で審議、検討するという手順にあらためた。

その他としては、例年、3月に実施している「心理人間教育研究会」は、本学科の中心的なFD活動の場である。ところが本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、有志のみによる小規模な開催とせざるを得なかった。また、新入生、卒業生、オープンキャンパス参加者に対する調査活動を行った。それぞれの結果は学科内で共有し、広報活動や学生指導に活用している。さらに、例年通りのことであるが、学科会議等のみならず、多様な機会をとらえて学生の情報、授業の情報を共有した。

日本文化学科では、学生の教育・指導について、例年通り4月に行った新入生学外オリエンテーションをはじめ、全ての学生が履修する基礎演習および演習の授業を通じて、学生・教員間のコミュニケーションを図った。特別な配慮や指導を要する学生に対しては、学科会議などを通じて教員全体で情報を共有するように努め、指導教員を中心に学科全体で指導することにより対応した。年度末(3月11日)には、「2021年度以降のカリキュラムについて」と題した企画を行い、学科教務委員の坂井博美准教授の報告のあと、学科教員9名による活発な討議を行った。2021年度以降、3つのポリシーに即した、学生の学習効果をより高めるための授業配置をし、授業内容を改善するために、開講科目等のカリキュラムを見直し、修正案の大筋を決定した。直近のカリキュラム改正に向けてのみならず、中長期的な問題について話し合えたことも有益であった。